

第6学年 総合的な学習指導案

指導者	1組	**	**
	2組	**	**

1 テーマ 手を取り合って生きる ～支える人・支えられる人 - PART

2 テーマについて

(1) 子どもの実態

子どもたちは、5年生の時に技労士の**さんとの交流をした。**さんは、平日には学校で技労士の仕事をする傍ら、休日になるとボランティアとして施設を訪問し、ギターと歌で施設の人々を元気づけている人物である。そこで**さんに子どもたちの前でギターを弾きながら歌を歌ってもらった。子どもたちはその演奏のはずらしさに感動するとともに意外性に驚き、さらに無償で施設を回っていることを知ってますます驚いた。子どもたちは、**さんの温かい人間性にふれ、自分もボランティアをしてみたいという気持ちをもつようになった。

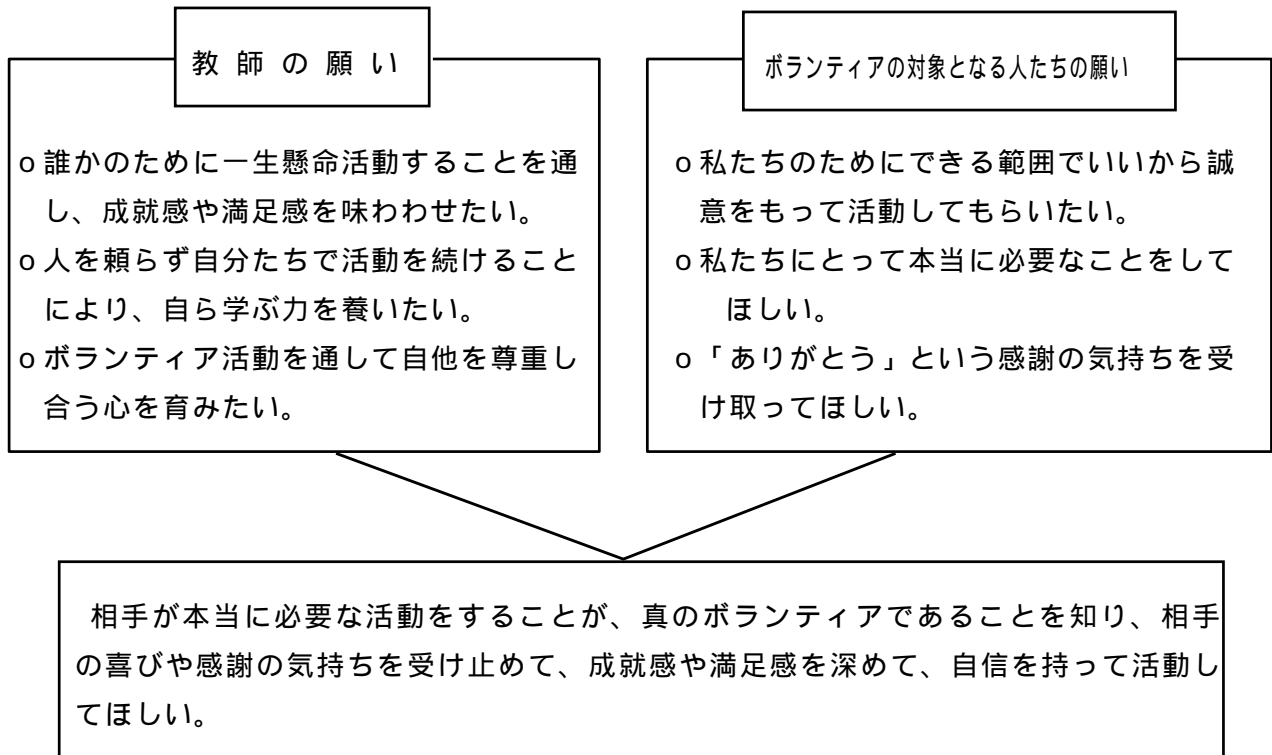
また、「**掃除に学ぶ会」の人たちとの出会いも子どもたちのボランティアマインドを一層かき立てた。子どもたちは、この人たちが便器に顔を突っ込んで汚れをおとしている姿に感動し、「誰かのためにボランティアをすることは気持ちのいいことだ」という話に、深く感銘した。そして、自分たちのできるボランティアは何かを考え、活動を開始した。

6年生になり、いよいよボランティア活動も本格的に行うようになった。子どもたちは「拡大絵本グループ（弱視の子のために拡大絵本をつくる）」「校内のトイレ掃除グループ」「校内清掃グループ」<2グループ>「校外清掃グループ」<3グループ>「プルタグ・古切手等収集グループ（車椅子を買うため）」「手芸ボランティアグループ（マスコットを作って収益金を寄付する）」の8グループに分かれ懸命にボランティア活動に励んでいる。しかし「誰のために・・・」というのが漠然としていて具体的な姿がつかめない状態である。

(2) 教師の願いと育てたい子ども像

現在までの子どもたちの活動を見ると、あるグループは、自分たちが自分たちの考えで決めた活動を一心不乱で行っていたり、またあるグループは、地域のボランティアさんから紹介されたボランティア活動を黙々としていたり、相手の存在をほとんど意識していない。そこでこのテーマの後半ではふれあう相手を特定して「その人のためにボランティア活動している」という意識がもてるように工夫する。そして、「～してくれてありがとう!」という相手の感謝の言葉から、新たな感動が得られ、成就感が生まれるようにしたい。子どもたちが、このボランティア活動を意欲的に持続させる手だてとして、「このままでよいのだろうか」というゆさぶりをかける。このゆさぶりから、自分たちの活動を振り返り、さらに活動が深まった活動（相手の存在を意識した活動）ができることを願う。

(3) 学社融合による学びの構造



3 テーマの目標

[自ら学ぶ力]

友達と話し合ったり、ボランティアの人に相談したりして、活動の見通しを持つことができる。 (とらえる力)

自分にもできるボランティア活動があることに気づき、自信を持って活動に参加することができる。 (解決する力)

[とともに生きる力]

相手の立場や思いを考えながらボランティア活動を進めることができる。 (認める力)

ボランティアする側とされる側が互いに交流することにより、ともに生きる喜びや大切さを感じ取ることができる。 (支え合う力)

4 仮説との関連

仮説 1

その人の人柄や生き方に感動するような人と出会う場を設定すれば、子どもが自ら学ぶ意欲を持ち、主体的に関わろうとするだろう。

< **先生との出会い > **先生は本校の技労士である。ふだんは破損箇所を修繕したり、花壇の手入れをしたりしているが、休日はギター演奏と歌で施設を慰問するといったボランティア活動も行っている。この**先生を教室に呼んで施設の訪問を再現してもらうことにより、子どもたちはその意外性に驚き、さらには無償で施設を慰問しているということから、ボランティアに興味を持ち、自分もやってみようという意識を持つのではないかと考えた。

<「* * 掃除に学ぶ会」の方々との出会い> この会の方々が便器に顔を突っ込んでふだんは目につかないところまでしっかりと汚れを落とすのである。子どもたちはその予想外の姿に感動し、一生懸命にした後の成就感や満足感を求めて活動したいという意欲が醸成されるのではないかと考えた。

仮説 2

子どもの願いや思いが達成できる体験活動を継続的に行えば、成就感や相手に対する理解が深まり、かかわる力が高まるだろう。

<活動カードの活用> 子どもたちが自主的に活動の見通しをもてるように、活動カードを活用し、それに1時間ごとの活動計画を記入するようにする。そして毎時間の活動終了時にその時間の活動内容や感想・反省等を記入し、計画と比較できるようにする。それにより活動が順調に進んでいるかつまずいているかがおのずとわかるようにする。順調に進んでいる場合にはさらに活動がうまくいくようにコメント等で支援をし、もし、つまずいていたり活動が大幅にずれていたら指導助言をしたり、グループ内で話し合ったりして軌道を修正するようにする。

<相手の特定> 子どもたちは1学期終了の段階で自分たちの決めたボランティア活動を意欲的に進めてきている。しかし、「誰のため?」という問いに対し、「全校のため」「地域のため」「体の不自由な人のため」と漠然とした回答しか得られない状態である。そこでボランティアをする相手を特定して交流を持つことにより、「 さんのためにやってよかった」「 さんに喜んでもらえてうれしい」という気持ちを持つことができ、活動の意欲とともに相手とかかわる力も培うことができると考えた。

仮説 3

自分の良さや人間のすばらしさに気づくような振り返りの場を設定すれば、ともに生きる力が育つだろう。

<活動の見直し> 子どもたちは現在のところ「拡大絵本を作る」「汚れたところを掃除する」「ブルタグや古切手を集める」「マスコットを作る」という活動に専念に継続している。

しかし、その先が見えない。そこで、「このままでいいのか」という疑問を投げかけることによってもう一度自分たちの活動を見直し、活動が深化するようにしていきたい。その中で新しい人との出会いが計画されればよいと考える。

<グループごとの発表会> 活動の中間と終盤において、ポスターセッション方式の発表会を行う。これは自分たちの活動のようすについて他のグループに知ってもらうためのものでもあるが、自分たちの活動を振り返るためのものでもある。子どもたちは、自分たちの活動を振り返り、改めて「やってよかった」という成就感や満足感に浸るであろう。そして、自分の良さや人間のすばらしさにきっと気づくと信じている。また、他のグループの活動を聞くことによって、活動の内容には違いはあれ、ボランティアする気持ちについては共通することに気づいてほしいと考える。そして、立場が違ってともに生きることの楽しさ大切さに気づいてほしいと考える。

5 指導計画（35時間扱い）

[自ら学ぶ力 ともに生きる力]

月	時間	学 習 活 動 と 内 容	評 価
6	1 1 9	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとにどんな活動をするか話し合う。 ○1学期の活動計画を立てる。 ○グループごとにボランティア活動を行う。 <p>【収集グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校へのポスターを作る。 ・プルタグ、古切手、カードなどの回収ボックスを作り、設置する。 ・土居さんにお話を聞く。 ・プルタグ、古切手、カードなどを回収して全校に発表する。 <p>【手芸ボランティアグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古布やフェルトを全校の呼びかけて集める。 ・回収ボックスを作り、設置する。 ・マスコットを作る。 <p>【拡大絵本グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古本の中から絵本を選ぶ。 ・パソコンを使って拡大した文字を打ち込む。 ・拡大文字をプリントアウトし、絵本に貼り付ける。 <p>【校内の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の汚れた箇所を点検する。 ・体育倉庫、屋上への階段、オープンスペースのベランダ、掃除用のロッカーなどを掃除する。 ・全校に掃除してほしい箇所をアンケート調査する。 <p>【トイレの掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ掃除に必要な道具を集める。 ・集められなかったものはその代用品を工夫して作る。 ・4階と3階のトイレ掃除を行う。 <p>【校外の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼい捨て禁止のポスターを作る。 ・地域のゴミの多い箇所を点検する。 ・地域のゴミ拾いをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○中間発表会の準備をする。 ○中間発表会をする。 	<p>自分が活動することが決まったか。</p> <p>友達と協力して計画を立てられたか。</p> <p>自分の立てた計画に従って順調に活動を進めることができたか。</p> <p>友達と協力して活動することができたか。</p> <p>話し合いの時に、積極的に参加することができたか。</p> <p>活動が行きづまった時、人を頼らず、まず、自分なりに解決方法を考えることができたか。</p> <p>活動表に記入しながら、次の時間の見通しをもつことができたか。</p>
7	2 1		<p>発表会に向けて積極的に取り組むことができたか。</p>
9	1 9	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の活動計画を立てる。 ○グループごとにボランティア活動を行う。 	<p>友達と協力して計画を立てられたか。</p>

10	<p>【収集グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターや回収ボックスの修繕をする。 ・プルタグ、古切手、カードなどを回収して全校に発表する。 <p>【手芸ボランティアグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコットを作る。 ・秋津祭のフリーマーケットで作ったマスコットを売る。 <p>【拡大絵本グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大絵本を作る。 ・「ハトの会」の人にこれでいいか聞き、改善する。 <p>【校内の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校へのアンケートをもとに汚れた箇所を掃除する。 ・活動を振り返る。 <p>【トイレの掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ掃除をしていないトイレを掃除する。 <p>【校外の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返る。 ・ぼい捨て禁止のポスターを作る。 ・地域のゴミの多い箇所を点検する。 	<p>自分の立てた計画に従って順調に活動を進めることができたか。</p> <p>友達と協力して活動することができたか。</p> <p>話し合いの時に、積極的に参加することができたか。</p> <p>活動が行きづまった時、人を頼らず、まず、自分なりに解決方法を考えることができたか。</p> <p>活動表に記入しながら、次の時間の見通しをもつことができたか。</p>
11	<p>1 (本時)</p> <p>9</p> <p>○自分たちの活動がこのままでよいか振り返り、活動の見直しを行う。</p> <p>○相手との交流を考えたボランティア活動を行う。</p> <p>【収集グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの活動が間接的であれ人のために役立っていることを理解して、自信を持って活動を進める。 <p>【手芸ボランティアグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益金を寄付する。 ・ケアセンターのお年寄りなどとの交流を継続するように考える。 <p>【拡大絵本グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大絵本を改善する。 ・弱視の子どもと交流するよう計画する。 	<p>グループの話し合いにより、相手を意識したボランティアが大切であることに気づく。</p> <p>相手と積極的に関わることができる。</p> <p>相手とどのように交流すればよいかを考えることができる。</p>
12	<p>1</p> <p>【校内の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の掃除を続けながら、掃除した感想を下級生に質問して交流をもつ。 <p>【トイレの掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの掃除を続けながら、感想を下級生に聞き、交流をもつ。 <p>【校外の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外の掃除を続けながら、地域の方に感想を聞き、交流をもつ。 <p>○活動を振り返り作文に表す。</p>	<p>相手に喜んでもらえることにより、自分の行ったボランティア活動に自信を持つことができる。</p> <p>相手との交流を通して、互いに支えあって生きることの大切さに気づくことができる。</p>

6 本時の活動(25/35)

(1) 目標

- 自分たちの進めているボランティア活動が、本当に人のためになっているかグループごとに話し合い、ボランティアマインドが深まるようにすることができる。
- 自分なりの意見を積極的に提供し、話し合いに参加することができる。

(2) 展開

活 動 内 容	教師()・ゲスト()の支援と評価()
1. 本時の活動内容を把握する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>今自分たちが行っているボランティア活動は、本当に人のためになっているか見直してみよう。</p> </div> <p>2. グループごとに話し合う。</p> <p>【収集グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターの人にお話を聞いてみよう。 ・わたしたちの収集活動は外国の人たちのためにも役立っているんだね。 ・インターネットで調べたことを話し合おう。 <p>【手芸ボランティアグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋津祭でマスコットを売ったけれど、この収益金をどのように使おうか？ ・何かを買ってボランティアセンターに寄付しよう。 ・ユニセフに寄付したらどうかな？ <p>【拡大絵本グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大絵本を作ったけれど、あれで本当によかったのかな？ ・弱視の子どもに聞いてみよう。 ・今度はもっと喜んでもらえるように工夫しよう。 <p>【校内の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからもどこをきれいにすればよいかアンケートをとろう。 ・掃除をした結果も、聞いてみよう。 ・誰に聞いたらいいかな？ <p>【トイレの掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちが一生懸命トイレをきれいにしているけれど、みんなはどう思っているのかな？ ・今度アンケートなどで聞いてみよう。 <p>【校外の掃除グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この前、幼稚園の掃除をしたけど、あれでよかったのかなあ。 ・今度、保育所や秋津園の掃除いくつだけけど、どんなことを工夫したらいいかなあ。 <p>3. グループごとに話し合ったことを発表する。</p>	<p>ブルタグなどの収集が間接的に発展途上国の援助になっていることに気づくようにする。 子どもたちのわずかな努力が大きな支えになっていることを伝える。 自分たちの活動に自信を持つことができたか。</p> <p>募金等の方法がいくつもあり、その中から選択できるようにする。 次の活動の計画を立てることができたか。</p> <p>弱視の子どもがより喜ぶような活動ができるように支援する。 改善する点を率直に伝える。 改善点がわかったか。</p> <p>活動が人のよがりにならないように助言する。 意見を求める相手が特定できたか。</p> <p>活動が一人よがりにならないように助言する。 意見を求める相手が特定できたか。</p> <p>自分たちの活動を振り返り、次の清掃活動に生かすようにする。 花の実園や秋津園の人達と一緒に清掃活動を行うよう助言する。</p> <p>次の活動に自信を持つことができたか。</p>